

10月9日（土） 第1会場（大気海洋研究所2階 講堂）

時 刻	詳 細
	座長 富永 修（福井県立大学）
10：00	101 上海ガニ問題を整理する：特定外来生物モクズガニ類の日本侵入の可能性 ○小林 哲（佐賀大学農学部 応用生物科学科）
10：15	102 名古屋港中川運河における外来種ミナトオウギガニの幼生加入過程 ○木村妙子（三重大学大学院 生物資源学研究科）
10：30	103 精子制限：大型雄の選択的な利用がヤシガニ資源に与える影響 ○佐藤 琢（西海区水産研究所 石垣支所）
10：45	104 ハボウキガイ（ <i>Pinna bicolor</i> ）腎臓中の顆粒に見られた高濃度のマンガン蓄積について ○山本千裕（福岡県水産海洋技術センター 有明海研究所）
	座長 浜口昌巳（瀬戸内海区水産研究所）
11：00	105 由良川河口域におけるアミ類の分布量と環境要因の季節変化 ―春季の高密度分布を支える要因は？― ○秋山 諭（京都大学 フィールド科学教育研究センター）
11：15	106 日本周辺における潜砂性アミ <i>Archaeomysis vulgaris</i> の分布と遺伝的集団構造 ○富永 修（福井県立大学 海洋生物資源臨海研究センター）
11：30	107 ウニ類除去による藻場回復効果の解析 ○熊谷直喜（水産工学研究所）
11：45	108 都市型の沿岸域におけるベントス群集の特性 ○上村了美（国土交通省 国土技術政策総合研究所）
12：00	昼食
13：00	ポスターセッション（1階エントランスホール）
	座長 木村妙子（三重大学）
15：00	109 東京湾水路内小規模干潟のベントス相 ○柚原 剛（東邦大学大学院 理学研究科）
15：15	110 東京湾盤洲干潟におけるカイヤドリウミグモの寄生によるシオフキ個体群の消滅 ○鈴木竜太郎（東邦大学大学院 理学研究科）
15：30	111 創出された砂質干潟における貝・カニ類の個体群特性 ○大田直友（阿南高専 建設システム工学科）
15：45	112 意図せず創出された干潟に生息するシオマネキとフトヘナタリ～総集編～ ○河井 崇（阿南高専 地域連携テクノセンター）
	座長 渡部裕美（海洋研究開発機構）
16：00	113 干潟カニ類幼生からの安価で簡便な DNA 抽出方法の比較 ○川根昌子（瀬戸内海区水産研究所）
16：15	114 海産自由生活性線虫類からの DNA 抽出と増幅条件 ○辻野 睦（瀬戸内海区水産研究所）
16：30	115 安定同位体比による日本海ベニズワイ生息域の食物網構造解析 ○木暮陽一（日本海区水産研究所）
	座長 山本智子（鹿児島大学）
16：45	116 河口域に発達したヨシ原に生息するベントスの餌利用について―種間比較および小スケールでの空間変動― ○金谷 弦（国立環境研究所）
17：00	117 千島海溝・琉球海溝周辺のメイオフアウナ現存量の空間変異 ○嶋永元裕（熊本大学 沿岸域環境科学教育研究センター）
17：15	118 海溝周辺域におけるソコミジンコ類群集 ～海溝に固有な群集は存在するのか？～ ○北橋 倫（東京大学 大気海洋研究所）
18：00～ 20：00	自由集会：巨大公共事業は海洋生物へどのような影響を与えたのか？ 世話人：山口啓子（島根大学）・浜口昌巳（瀬戸内水研）

10月9日（土） 第2会場（大気海洋研究所2階 大講義室）

時 刻	詳 細
	座長 葛西広海（北水研）
10：00	201 沿岸海域におけるリン酸ジエステル分解酵素活性の分布と変動 ○山口晴生（高知大学 農学部）
10：15	202 植物プランクトンの増殖に対するスラグの添加効果 ○李 仁恵（香川大学 農学部）
10：30	203 人工水路のヨシ帯における <i>Microcystis aeruginosa</i> 殺藻細菌について ○扇 航平（北海道大学大学院 水産科学院）
10：45	204 海産珪藻 <i>Chaetoceros tenuissimus</i> のリン酸塩制限培養下における遺伝子発現 ～マイクロアレイを用いた予備的検討～ ○外丸裕司（瀬戸内海区水産研究所）
	座長 外丸裕司（瀬戸内海区水産研究所）
11：00	205 岩手県沿岸南部における従属栄養性ナノ 鞭毛虫の摂食活性 ○小林太一（北里大学大学院 水産学研究科）
11：15	206 西九州大村湾でのセディメントトラップ実験による渦鞭毛藻類のシスト形成期の環境 ○松岡数充（長崎大学 環東シナ海海洋環境資源研究センター）
11：30	207 東京湾の海産珪藻 <i>Skeletonema</i> 属の種多様性 ○藤野佑美（福岡女子大学）
11：45	208 大阪湾における海産珪藻 <i>Skeletonema</i> 属の種多様性 ○田代紗菜（福岡女子大学）
12：00	昼 食
13：00	ポスターセッション（1階エントランスホール）
	座長 山田真知子（福岡女子大学）
15：00	209 播磨灘における有害珪藻 <i>Eucampia zodiacus</i> 細胞密度の変動および細胞サイズの減少と回復 ○西川哲也（兵庫県立農林水産技術総合センター）
15：15	210 由良川下流域における夏季の塩水潮上に伴う海産植物プランクトンのブルーム形成 ○渡辺謙太（京都大学 舞鶴水産実験所）
15：30	211 岩手県大船渡湾におけるピコ・ナノプランクトン群集構造の季節的变化 ○山田雄一郎（北里大学 海洋生命科学部）
15：45	212 微細藻類の簡便な生死判別法の試み ○重倉基希（北海道大学大学院 環境科学院）
	座長 三宅裕志（北里大学）
16：00	213 サンゴ礁ヒトデ類の種分化と幼生分散 ○安田仁奈（瀬戸内海区水産研究所）
16：15	214 平衡胞重量を用いたエチゼンクラゲの日齢査定－飼育クラゲ幼体の結果を含めて－ ○河村真理子（水産大学校）
16：30	215 三河湾におけるミズクラゲポリプの分布の再解析 ○豊川雅哉（中央水産研究所）
16：45	216 造礁サンゴの初期生活史における褐虫藻獲得 ○波利井佐紀（琉球大学 熱帯生物圏研究センター）
17：00	217 漂流エチゼンクラゲの生殖巣発達過程：日本沿岸定着の可能性 ○池田英樹（広島大学大学院 生物圏科学研究科）
17：15	218 繊毛虫を餌料としたミズクラゲ幼生期の成長効果 ○神山孝史（瀬戸内海区水産研究所）
18：00～ 20：00	自由集会：ヤムシ研究最前線 世話人：寺崎 誠（三洋テクノマリン）・永井直樹（気象庁）・宮本洋臣（東京大学）・黒田一紀（千葉県）

10月10日（日） 第1会場（大気海洋研究所2階 講堂）

時 刻	詳 細
	座長 大越和加（東北大学）
09：00	119 南西諸島の小河川に生息するゴカイ科 <i>Composetia</i> 属多毛類の分類および喜界島浦原川個体群の生活史 ○海老原匠（鹿児島大学 理工学研究科）
09：15	120 First records of reproductive swarming of <i>Glycera nicobarica</i> (Polychaeta: Glyceridae) ○Yusuf Shuaib（鹿児島大学 理工学研究科）
09：30	121 富栄養海域福山港に生息するスピオ科多毛類 <i>Polydora cornuta</i> Bosc 1802 の遺伝的特徴 ○高田詔民（(株)日本総合科学）
09：45	122 有明海湾奥部のカキ礁を形成するカキ類の個体数およびバイオマスの季節変化ならびに水環境との関係 ○埴山秀樹（西海区水産研究所）
	座長 吉野健児（佐賀大学）
10：00	123 熱帯太平洋域、熱帯インド洋域及びインドネシア領海に生息する外洋棲ウミアメンボの棲息密度の比較 ○原田哲夫（高知大 教育）
10：15	124 メタ個体群モデルを利用したアワビ類の資源評価の試み ○堀 正和（瀬戸内海区水産研究所）
10：30	125 中海本庄域におけるアサリの時空間・水深間変動パターンの解明 ○山田勝雅（瀬戸内海区水産研究所）
10：45	126 走査型電子顕微鏡を用いたアサリ幼生殻の構造の観察 ○南部亮元（水産工学研究所）
	座長 伊谷 行（高知大学）
11：00	127 南極海と北極海に生息する浮遊性と底生性の貝類の貝殻構造の特徴 ○大越和加（東北大学大学院 農学研究科）
11：15	128 「生きている化石」単板類における現生種の多様性と起源について ○狩野泰則（東京大学 大気海洋研究所）
11：30	129 腹足類の巻きは再進化するか？—ウロダマヤドリ科の例から ○藤井美幸（宮崎大学大学院 農学研究科）
11：45	130 空飛ぶ貝：中米陸橋を飛び越えた潮間帯巻貝 ○三浦 収（京都大学大学院 地球環境学堂）
12：00	昼食
13：00	ポスターセッション（1階エントランスホール）
15：00– 16：00	日本ベントス学会奨励賞受賞講演「ホンヤドカリの貝殻利用における性差とその背景」 吉野健児（佐賀大学 低平地沿岸センター）
16：00– 17：30	日本ベントス学会 総会
18：00– 20：00	懇親会 プラザ憩い

10月10日（日） 第2会場（大気海洋研究所2階 大講義室）

時 刻	詳 細
	座長 石川 輝（三重大学）
09：00	219 セジメントトラップにより採集された初夏の西部北太平洋亜寒帯域におけるプランクトン群集の短期時系列変動 ○大橋理恵（北海道大学大学院 水産科学院）
09：15	220 2009年夏季ベーリング海南東部陸棚域の海底泥中に存在する珪藻休眠期細胞 ○塚崎千庫（北海道大学大学院 水産科学院）
09：30	221 西部太平洋熱帯-亜熱帯域における植物プランクトンの鉛直分布 ～光化学系IIパラメーターによる解釈～ ○藤木徹一（海洋研究開発機構）
09：45	222 オホーツク海紋別沿岸・沖合域のプランクトン相の時空間変動 ○葛西広海（北海道区水産研究所）
	座長 藤木徹一（海洋研究開発機構）
10：00	223 三重県鳥羽市加茂川におけるクリプト藻赤潮の発生機構 ○石川 輝（三重大学大学院 生物資源学研究科）
10：15	224 三重県英虞湾における底生性渦鞭毛藻 <i>Gambierdiscus</i> sp.の出現動態 ○武市有未（三重大学大学院 生物資源学研究科）
10：30	225 有明海における渦鞭毛藻 <i>Akashiwo sanguinea</i> の細胞分裂頻度からの増殖速度の見積り ○片野俊也（佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター）
10：45	226 夏季の有明海奥部海域における赤潮維持構造の解明 ○村崎公美（熊本県立大学大学院）
11：00	227 淀川感潮域におけるヤマトシジミの毒化と有毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の増殖 ○山本圭吾（大阪府環境農林水産総合研究所 水産技術センター）
	座長 片野俊也（佐賀大学）
11：15	228 有明海で発生したシャットネラ赤潮の毒性因子の検討 ○小田達也（長崎大学 水産学部）
11：30	229 八代海における有害ラフィド藻 <i>Chattonella</i> 属シストの分布と休眠・発芽特性 ○山口峰生（瀬戸内海区水産研究所）
11：45	230 アマモ場から検出された有毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> に対する増殖阻害細菌について ○大西由花（北海道大学大学院 水産科学院）
12：00	昼食
13：00	ポスターセッション（1階エントランスホール）
	座長 片野俊也（佐賀大学）
15：00	231 瀬戸内海およびマニラ湾より分離した有毒渦鞭毛藻 <i>Alexandrium tamarense</i> の増殖におよぼす水温、塩分および光強度の影響 ○坂本節子（瀬戸内海区水産研究所）
15：15	232 宮城県女川湾底泥から単離された珪藻摂食性鞭毛虫の微細構造および摂食様式 ○大野博正（東北大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻）
	座長 宮本洋臣（東京大学）
15：30	233 西日本の汽水性カイアシ類 <i>Pseudodiaptomus inopinus</i> の形態・分子分類学的研究 ○坂口穂子（高知大学 総合人間自然科学研究科）
15：45	234 黒潮D型流路時における相模湾およびその周辺海域のオキアミ類の生物相と鉛直分布 ○伊東 宏（水土舎）
16：00	235 光学式プランクトンカウンターによる夏季の西部北太平洋における動物プランクトン群集のサイズ構造解析 ○山口 篤（北海道大学大学院 水産科学研究院）
16：15	236 亜熱帯河口沖沿岸における動物プランクトン群集の季節変動 ○福岡弘紀（西海区水産研究所 石垣支所）
	座長 下出信次（東京大学）
16：30	237 東京湾における <i>Calanus sinicus</i> の季節的出現 ○立花愛子（東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科）
16：45	238 インド太平洋海域における浮遊性ヤムシ類の群集構造 ○宮本洋臣（東京大学 大気海洋研究所）
17：00	239 マメツブハダカカメガイの生態学的研究 ―分布と栄養段階― ○町田真通（東京大学 大気海洋研究所）
17：15	240 相模湾における中層性カイアシ類の食性の季節的变化 ○佐野雅美（東京大学 大気海洋研究所）
18：00- 20：00	懇親会 プラザ憩い

10月11日（月・祝） 第1会場（大気海洋研究所2階 講堂）

時 刻	詳 細
	座長 佐藤慎一（東北大学）
09：00	131 クリガニとトゲクリガニにおける種間交雑の可能性 ○永尾次郎（養殖研究所）
09：15	132 オカガニ類 <i>Gecarcinus lateralis</i> の巣穴形態 ○清家弘治（港湾空港技術研究所）
09：30	133 ドロノミ科ヨコエビ <i>Dulichia</i> sp. のマスト形成能力 ○新居洋吾（筑波大学 下田臨海実験センター）
09：45	134 ウミホタルガクレの繁殖生態 ○松原 史（熊本大学 自然科学研究科）
	座長 北沢公太（東京大学）
10：00	135 日本産ハマトビムシ科端脚類の分子系統解析－生息環境との関連 ○笹子由希夫（三重大学大学院 生物資源学研究科）
10：15	136 仙台市蒲生干潟のアサリ集団に見られる生殖周期の変異について ○佐藤慎一（東北大学 総合学術博物館）
10：30	137 日本・韓国産ハマグリ類の形態・遺伝子レベルの比較 ○鳥居 洋（東北大学 理学研究科）
10：45	138 隆起サンゴ礁潮間帯上部における貝殻色の多様性 ○河合 溪（鹿児島大学 国際島嶼教育研究センター）
	座長 加戸隆介（北里大学）
11：00	139 有明海におけるナメクジウオの個体群動態 ○逸見泰久（熊本大学 沿岸域環境科学教育研究センター）
11：15	140 ウミユリ類トリノアシの能動的採餌流調節 ○北沢公太（東京大学 大気海洋研究所）
11：30	141 アカフジツボ付着期幼生の迅速・特異検出技術に関する研究開発 ○山下桂司（株式会社セシルリサーチ）
11：45	142 明神海丘における蔓脚類2種、ネッスイハナカゴとハツシマレパスの棲み分け機構 ○頼末武史（東京大学 大気海洋研究所）
12：00	昼食
13：00	公開シンポジウム「プランクトンとして見るベントスの研究」 趣旨説明 コンビナー：風呂田利夫（東邦大学）・石井晴人（東京海洋大学）
13：10	S01 ミズクラゲの浮遊世代と付着世代 ○石井晴人（東京海洋大学）
13：40	S02 オオバウチワエビ幼生とクラゲとの関係 ○若林香織（東京海洋大学）
14：10	S03 多毛類幼生の研究－宮城県女川湾に優占する多毛類浮遊幼生 ○阿部博和（東北大院 農）
14：40	S04 多摩川河口域におけるベントス幼生プランクトン調査－河口干潟群集の維持機構解明とモニタリングにむけて－ ○伊東 宏（水土社）
15：10	休憩
15：20	S05 両側回遊性淡水エビの地理的交流 ○宇佐美葉（東京海洋大学）
15：50	S06 サンゴ礁海産生物の幼生分散とリーフ・コネクティビティー ○灘岡和夫（東工大）・○安田仁奈（瀬戸内水研）
16：25	S07 個体群動態研究における幼生プランクトン研究－技術開発と応用－ ○浜口昌巳（瀬戸内水研）
17：00	総合討論 司会：石井晴人（東京海洋大学）・風呂田利夫（東邦大学）
18：00	閉会

10月11日（月・祝） 第2会場（大気海洋研究所2階 大講義室）

時 刻	詳 細
	座長 神山孝史（瀬戸内海区水産研究所）
09：00	241 北西太平洋における放散虫調査とその意義 ○鈴木紀毅（東北大学大学院 理学研究科地学専攻）
09：15	242 寒冷海域の放散虫の共生藻類 ○大金 薫（国立科学博物館 植物研究部）
09：30	243 硫黄島・グアム西方海域にみられた湧昇域のプランクトンについて ○辻 彰洋（国立科学博物館 植物研究部）
09：45	244 亜寒帯汽水湖におけるアマモ (<i>Zostera marina</i>) の分解による栄養塩再生の推定 ○張間千鶴（北海道大学大学院 環境科学院）
10：00	245 サロマ湖の栄養塩循環過程におけるホタテガイ (<i>Patinopecten yessoensis</i>)排泄物の影響 ○森田 康（北海道大学大学院 環境科学院）
10：15	246 亜寒帯汽水湖における懸濁態無機リンの分布特性 ○田岡宏崇（北海道大学 環境科学院）
	座長 倉田健悟（島根大学）
10：30	247 諫早湾調整池におけるアオコの大発生とアオコ毒ミクロシスチンの堆積物・水生生物への蓄積 ○梅原 亮（熊本県立大学 海洋生態学研究科）
10：45	248 夏季の緑川河口干潟（熊本県）における底生動物群集の構造変化 ―2002年および2008年, 2009年の比較― ○小森田智大（熊本県立大学 環境共生学部）
11：00	249 農業用水路の指標種であるイシガイ類の種多様性と関連する非生物的環境因子 ○秋山吉寛（名古屋大学）
	座長 嶋永元裕（熊本大学）
11：15	250 有明海における底質の変化と底生動物群集の変化との対比 ○菊地真絵美（東北大学 理学部）
11：30	251 水俣湾周辺海域にて発見された希少底生生物について ○森 敬介（国立水俣病総合研究センター）
11：45	252 中海本庄水域における底生生物調査について ○倉田健悟（島根大学 汽水域研究センター）

10月9日（土）13:00-15:00 ポスターセッション（1階エントランスホール）

- P01 水田における動物プランクトンおよびベントス生産の見積もり ○伴 修平（滋賀県立大学 環境科学部）
- P02 土佐湾における尾虫類優占数種の季節的、空間的分布 ○上田拓史（高知大学 海洋生物）
- P03 ウマヅラハギ仔魚のミズクラゲに対する回避能力とクラゲ摂餌行動の個体発生
..... ○宮島悠子（京都大学 フィールド科学教育研究センター）
- P04 珪藻 *Didymosphenia geminata* の国内における分布状況 ○奥 修（マイクロワールドサービス）
- P05 我が国の沿岸海域に出現する珪藻 *Skeletonema* 属の形態学的特徴の検討 ○馬場千英（福岡女子大学）
- P06 マレーシア、バガン・ダトーにおけるクラゲ漁業 ○西川 淳（東京大学 大気海洋研究所）
- P07 北海道北西部・武蔵堆周辺海域における *Oithona* 科カイアシ類 3 種の夏季鉛直分布 ○河合百華（株式会社エコニクス）
- P08 *Archaeomysis* のミトコンドリアゲノム全塩基配列決定 ○水野剛志（福井工業大学）
- P09 三重県沿岸域から新に発見された珪藻類休眠期細胞 ○石井健一郎（京都大学 農学研究科）
- P10 三陸沿岸に漁業被害を与えるキタミズクラゲについて ○三宅裕志（北里大学 海洋生命科学部）
- P11 集群性アミ類ヒメオオメアミの空間パターン解析 ○阪本真吾（筑波大学 下田臨海実験センター）
- P12 水底の地形要因とヤマトシジミの空間パターンとの関係—涸沼の事例 ○齊藤 肇（水産工学研究所）
- P13 水底の地形要因とヤマトシジミの空間パターンとの関係—淀川の事例 ○澤田英樹（水産工学研究所）
- P14 菊池川感潮域におけるヤマトシジミ (*Corbicula japonica*) の棲息環境の特性と個体群変動
..... ○渡邊恵実（北海道大学大学院 環境科学院）
- P15 熊本県菊池川河口域におけるヤマトシジミ (*Corbicula japonica*) の個体群動態と生息環境の変動
..... ○園田仁美（熊本県立大学）
- P16 二枚貝浮遊幼生の連続式採集機の開発と試用 ○井上誠章（養殖研究所）
- P17 利水施設で利用可能なカワヒバリガイ調査用トラップの開発：トラップへの処理が及ぼす付着効率への影響
..... ○伊藤健二（農業環境技術研究所）
- P18 ホトトギスガイ (*Musculista senhousia*) の塩分による成長速度の違い ○田中秀典（島根県 環境保健公社）
- P19 内生二枚貝 5 種における生息姿勢の調整行動 ○氏野 優（東京大学大学院 理学系研究科）
- P20 アマオブネ上目貝類における浮遊幼生サイズの比較と系統分類学的意義—始新世遺存種の例から
..... ○福森啓晶（宮崎大学大学院 農学研究科）
- P21 重富干潟における棲息環境の空間変移とウミナナの分布 ○山本智子（鹿児島大学 水産学部）
- P22 日本周辺におけるホソウミナナ (*Batillaria cumingi*) の遺伝的集団構造 ○伊藤 萌（東京大学 大気海洋研究所）
- P23 深海熱水噴出域固有腹足類ヨモツヘグイナナから見つかった新規幼生と保育嚢 ○渡部裕美（海洋研究開発機構）
- P24 熱水域固有のハイカブリナ科巻貝におけるミトコンドリア DNA の遺伝子配置変動
..... ○日高裕華（東京大学 大気海洋研究所）
- P25 深海熱水噴出域固有種ゴエモンコシオリエビの分散と集団構造 ○徐 美恵（東京大学 大気海洋研究所）
- P26 両側回遊種ミゾレヌマエビとヤマトヌマエビの地理的分布における黒潮の役割
..... ○藤田純太（京都大学 フィールド科学研究センター）
- P27 特定外来生物ウチダザリガニの関東での初記録：高水温域への分布拡大 ○中田和義（土木研究所）
- P28 大船渡湾におけるミネフジツボの成長と環境 ○宮原大輔（北里大学大学院 水産学研究科）
- P29 海藻穿孔性端脚類コンブノネクイムシの同居巣における家族の役割 ○青木優和（筑波大学 下田臨海実験センター）
- P30 造巣性端脚類 *Bubocorophium* sp. の同居巣はなぜ存在するのか？—野外定期調査による検討—
..... ○阿久津 崇（筑波大学 下田臨海実験センター）
- P31 富山および新潟における砂浜汀線域に生息する小型甲殻類の分布と砂浜環境 ○高田宜武（日本海区水産研究所）
- P32 宮城県佐須浜マガキ帯に生息するスピオ科多毛類の個体群動態 ○内海修平（東北大学大学院 農学研究科）
- P33 西日本における釣り餌として流通される水生動物の現状 ○斉藤英俊（広島大学大学院 生物圏科学研究科）

10月10日（日）13:00-15:00 ポスターセッション（1階エントランスホール）

- P34 西部北太平洋に出現するカイアシ類 *Rhincalanus rostrifrons* の分布特性と生活史 ○下出信次（東京大学 大気海洋研究所）
- P35 北海道東部根室湾における春季から夏季にかけての *Eurytemora herdmani* と *Eurytemora pacifica* の出現（2009 年）と両種のコペポディド幼体Ⅶ期の形態 ○岩淵雅輝（（株）エコニクス）
- P36 春期日本海、能登半島周辺表層海域におけるカイアシ類ノープリウスの水平分布 ○高橋 卓（上越環境科学センター）
- P37 ミズクラゲ *Aurelia aurita* のストロビレーションに対する餌量の影響 ○高澤麻理（北里大学大学院 水産学研究科）
- P38 ミドリイシ属サンゴの緯度傾斜に沿った適応的分化パターンの解明（予報） ○井口 亮（琉球大学 熱帯生物圏研究センター）
- P39 環境変動がサンゴポリプの初期骨格成長に与える影響 ○新免浩太郎（東京大学大学院 新領域創成科学研究科）
- P40 相模湾でアカクラゲポリプを発見 ○豊川雅哉（中央水産研究所）
- P41 Occurrence of Dinoflagellate species in Southern Coast of Myanmar ○ Su Myat（広島大学 生物圏科学研究科）
- P42 Continuous monitoring of *Chattonella* spp. in Ariake Sea and Tachibana Bay by FlowCAM ○ Maung Saw Htoo Thaw（広島大学 生物圏科学研究科）
- P43 一般の人はどのくらい海洋生物を知っているか？ ～アンケート調査結果から～ ○光澤安衣子（愛媛県総合科学博物館）
- P44 谷津干潟における 2010 年夏季のアサリおよびホンビノスガイの殻を用いた成長速度算出と死亡時期推定について ○杉原奈央子（東京大学大学院 農学生命科学研究科）
- P45 有明海湾奥部のサルボウ形態の種内変異 ○吉野健児（佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター）
- P46 伊勢湾アサリ漁場における貧酸素水塊の湧昇 ○長谷川夏樹（北海道区水産研究所）
- P47 中海・本庄水域におけるサルボウガイ幼生の分布 ○今川和也（島根大学 生物資源科学部）
- P48 中海の底質環境指標とサルボウガイとの関係について ○鈴木秀幸（島根大学大学院 生物資源科学研究科）
- P49 中海本庄水域におけるアサリプランクトン幼生の分布特性 ○袴田一彬（島根大学 生物資源科学部）
- P50 中海・本庄水域におけるアサリの個体群動態 ○藤田志織（島根大学 生物資源科学部）
- P51 土佐湾仁淀川河口沖浅海底におけるベントスの分布 ○森永純一（高知大学大学院 教育学専攻）
- P52 2つの河口泥質干潟におけるヤマトオサガニを中心とした炭素・窒素循環の定量化 ○岩雲貴俊（徳島大学 先端技術科学教育部）
- P53 チゴガニ雄の雌獲得戦略—その成功度と要因 ○笠谷麻美（奈良女子大学）
- P54 *Orthione griffenis*（等脚目：エビヤドリムシ科）の日本における分布と生態学的特性 ○伊谷 行（高知大学教育学部）
- P55 東京国際空港再拡張事業の多摩川河口干潟への経年的影響 ○榎本輝樹（千葉県立保健医療大学）
- P56 東京湾奥部谷津干潟における干潟底生生物の大量斃死 ○藤巻 亮（東邦大学）
- P57 東京湾奥部の塩性湿地に造成した感潮池における底生生物の出現状況 ○中山聖子（東邦大学 理学部）
- P58 中海に棲息するマクロベントスの環境棲息特性 ○戸田顕史（島根県 環境保健公社）
- P59 流域・沿岸の環境要因が沿岸生態系へ与える影響：全国データセットで藻場・干潟の分布を説明する ○山北剛久（森林総合研究所）
- P60 Carbon and nitrogen stable isotope ratio variation of organisms in four Japanese tidal flats from subarctic region to subtropic region ○伊藤 博（北海道区水産研究所）
- P61 潮間帯イソギンチャク類 3 種への吸虫類メタセルカリアの寄生について ○柳 研介（千葉県立中央博物館）
- P62 砂の素を養殖する ○細野隆史（東京大学 理学系研究科）
- P63 三浦半島小網代湾産オオウミシダ（棘皮動物門：ウミユリ綱）の発生と成長過程 ○幸塚久典（東京大学 理学系研究科 附属臨海実験所）
- P64 深海魚における嗅覚系の適応と進化 嗅球の形態と比較から ○前田玲奈（東京大学 大気海洋研究所）
- P65 深海性底魚の地理的分布と初期生活史 ○佐久間啓（東京大学 大気海洋研究所）